

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 4月 1日

事業所名 放課後等デイサービス ハグプラス

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	1	近隣の公園を利用する等、屋外活動を取り入れながらスペースを確保している。	
	2	職員の配置数は適切である	7	1	基準上必要な人員について職員間でダブルチェックを行っている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	5	3	活動スペースについてはバリアフリーとなっているが、多動な児童も多いため、可能な限り障がい物を減らしている。	室内の活動スペースをなるべく広くとれるように柵などの配置を配慮する。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	1	毎月の定例会議で行事や支援の振り返り等を行っている。	会議で振り返りを行い、非常勤含む全職員が会議の内容を確認できるようにしている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8			年に1回実施し、業務改善に努めている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	2		当社のHPIにて毎年公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	5		第三者による外部評価はしていないが、必要に応じて今後検討していく。
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3	4		定期的に社内研修を行っている。外部研修を含め、今後も研修の機会を確保していく。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6			児童発達支援管理責任者を中心に、利用児童や保護者のニーズに合わせた支援計画を会議等で話し合い共有している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	2		適切にアセスメントを行い、各職員が子どもの特性について把握できるよう記録を共有している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7		職員間で話し合いながら、利用者のニーズに合わせた活動を取り入れている。	多様なニーズへの対応ができるよう、各職員が地域の情報収集等に努める。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	1	利用児童の要望なども考慮し、多様な体験の機会を作っている。	地域の行事等にも目を向けて、参加できる機会を積極的に作っていく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7	1	活動時間が制限される場合も考慮して、個々の活動やグループでの活動を取り入れている。	平日、休日、長期休暇中に合わせた過ごし方や活動を決めて支援している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる放課後等デイサービス計画を作成している	6	1	個々の発達特性及び課題点に応じた個別・集団活動を提供している。	児童の状態に合わせて個別・集団活動を組み合わせる支援になるように心がけている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	3	SNSを活用し、行事内容や支援の様子等の共有を図っている。	非常勤職員への細かな共有も合わせて行うことで、スムーズな支援につなげる。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	4	SNSを活用し、休みの職員を含めリアルタイムでの情報共有の徹底。	非常勤職員を含め全職員で、支援内容の把握を行い、チーム支援を心掛ける。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	1	日々の支援の記録をとり、次の支援に活かせるようにしている。	職員間での振り返りを行うにあたって、日々の記録も重要なツールとして検証することで、より適切な記録の重要性を認識していく。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8		モニタリング時期に会議等で、各職員から支援状況や児童の様子などを幅広く聞きとるようにしている。	支援状況を全職員から聞き取り、ニーズに沿った見直しにつなげていく。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている	7	1	地域のイベント情報などにも注目し積極的に参加するようにしている。	地域交流の機会が少ないので、細かな情報収集を行い、活動の幅を増やしていく。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標		
関係機関や保護者との連携	20		8	児発管が参加しているが、新規利用の児童は、可能であれば支援の担当者も出席している。	児童の障がい特性に応じて、細やかな配慮ができるよう職員間の情報共有に努める。		
	21		7	学校や保護者と連絡を取りながら、不備がないように努めている。	送迎時には、担任から引き継ぐ際に学校での様子を伺い児童の状態把握に努める。		
	22		5	3		現在、医療的ケア児童の受け入れはない。	
	23		5	2		保護者、相談支援事業所等との情報共有を行っている。	
	24		3	2		利用者からの同意を得たうえで、可能な限り支援状況等の情報を提供している。	
	25		4	2		困難事例に対しては、家庭状況に応じて連携を行っているが、今後研修等への参加を検討していきたい。	
	26		4	4	地域のイベント等には積極的に参加するようにしている。	保護者から必要ないとの意見もあるため、内容について精査しながら交流の機会を確保できるよう検討していく。	
	27		2	4		現状、参加実績はないが、参加依頼があれば積極的に参加していきたい。	
	28		7			連絡帳や送迎時以外にも個別で保護者と電話連絡とるなどしながら、児童の状況について共通理解ができるように努めている。	
29		3	3		必要に応じて保護者と一緒に支援の方針を考えており、相談できる体制をとっている。今後も細やかに対応していく。		
保護者への説明責任等	30		8			契約の際に書面に加え、口頭でも補足しながら説明している。変更があった場合は、都度、書面にて周知してもらっている。	
	31		6	1	電話やSNSを活用し、スピーディーな対応を心掛けている。また、個別面談も行っている。	個別での相談依頼に対して、面談する時間をとり、細やかな対応を行う。	
	32		1	6	保護者の要望も踏まえ、負担のないような内容を検討している。	希望しない保護者もいるため、自由参加など負担軽減にも配慮していく。	
	33		7	1	苦情受付の窓口についての説明を契約時に行っている。	苦情があった場合は、経緯も含め速やかな対応を行い、進捗状況についても報告を行う。	
	34		6	1	月に一度、会報を発行し、活動の様子や翌月の行事予定等を案内している。利用児童も読めるよう、ふりがなをつけている。	活動の様子だけでなく、事業所からの連絡事項等も合わせて発信する。	
	35	個人情報に十分注意している		7	1	書類は鍵付き書庫へ保管し、保護者にも契約の際、説明・同意をもらっている。さらに全職員へも周知徹底させている。	個人情報についての研修等を通して、職員の意識向上に努める。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている		6	1	SNSや書面、口頭など、個々に応じた伝達を行っている。	個々に応じた方法で、誤解が生じないよう細かな情報伝達を行う。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		1	6	地域のイベント等の情報収集と積極的な参加。	現状では、児童の障がい特性や事業所のスペース等の問題もあり外部の受け入れは行っていないが、地域の行事に積極的に参加することで事業所の周知に努めていく。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	3		会議等の際に再確認し、職員の周知不足を改善する。保護者に対しては、広報誌等を活用していきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7		年に4回の訓練を実施している。	職員、利用児童共に、訓練以外の場面でも普段から防災の意識を高めていくよう促しを行う。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7		虐待防止の研修を実施している。	虐待防止委員会を年1回以上開催し、全職員に周知徹底している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3	2		現在身体拘束が必要な児童はいないが、事前に保護者に書面にて説明し了承を得ている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	1	契約時にアレルギーの有無を確認し、対応している。	職員間での情報共有を徹底し、アレルギー児童へは提供しないようにしている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8		当事者以外にも分かり易く作成するようにしており、事業所内での共有ができるようにしている。	判断に迷う事例でも報告、作成し、改善に結び付けていく。